



ここへくる旅。

北海道
HOKKAIDO

キュンと

ハード整備だけじゃない
今すぐできる
バリアフリー

安心だから
何度でも
出かけられるね!!



バリアフリー観光宿泊モデル検証事業



ハード整備だけじゃない
今すぐできる
バリアフリー

まずは 心のバリアフリー

ホテルや旅館を利用するのは、そこに魅力的な何か、料理や温泉、眺望等があるからであって、「バリアフリー」を体験したいわけではありません。すべての障がいに対応できる施設もありません。施設整備をすることで、どなたにとっても利用しやすい施設を目指すことは大切なことですが、受入側の「ようこそ」の気持ちと、ちょっとした心づかいとお手伝いがバリアフリーの第一歩で、最も重要なことではないでしょうか？

平成 27 年 9 月

公益社団法人 北海道観光振興機構

《制作・監修》

バリアフリー観光宿泊モデル検証事業受託コンソーシアム

代表者／特定非営利活動法人カムイ大雪バリアフリー研究所

住所：旭川市東旭川町旭正 315 番地 2

カムイ大雪バリアフリーツアーセンター 気付

TEL：0166-38-8200 FAX：0166-38-8211

Email：chousa@kamui-daisetsu.org

高齢者や障がい者の人口は着実に増えており、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの頃には、65歳以上の全人口に占める割合は29%と見込まれています。身体障がい者数も、65歳以上の層の増加率が突出しており、加齢による影響が大きいことが想像されます。

こうした方々が障がいのためにあきらめたり妥協したりしたこととして最も多いのが旅行や遠距離の外出です。

国は、平成6年にハートビル法、平成12年に交通バリアフリー法を制定し、その後、これらを統合したバリアフリー新法（高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律）を整備してきており、来年平成28年4月からは『障害者差別解消法』も施行されます。

【障害者差別解消法】とは

障害を理由として、正当な理由なく、サービスの提供を拒否したり、制限したり、条件を付けたりするような行為「障害を理由とする差別」の禁止と、障害者に対する合理的な配慮の提供を定めた法律（H25.6 公布）で、H28年4月に施行されます。

高齢者や障がい者が旅行に出かけやすい環境整備を進めることで、北海道にも新たな旅行需要の創出が期待されます。

このパンフレットは、ハード整備にのみ目が行きがちなバリアフリー対策の、もう一つの面に目を向けていただこうと作成したものです。ご活用いただければ幸いです。

バリアフリー対策はおもてなしのホスピタリティーで解決！

フロントなどで手話の出来る方がいなくても筆談ボードがあるだけでサービス向上につながります。



フロント

駐車場



施設入り口から遠い駐車場の場合など、荷物を先に降ろしていただき、預かると喜ばれます。



レストラン

バイキング形式での食事では、高齢者や車いす、目の不自由なお客様にとって料理や飲み物が取りやすい陳列の工夫や皿盛りのサポートがあるといいですね。

浴場・売店

宿泊施設内のバリアフリー確認ポイント

トイレ



浴場などは段差が多いので、事前に高低差などを知ることができると安心です。売店の通路も車いすが通れるスペースを確保することで買い物もスムーズ。高いところ、低いところはお手伝いを。

特別な多目的トイレでなくても、手すりや設備の写真、サイズの情報があれば、お客様自身が利用可能か判断できます。

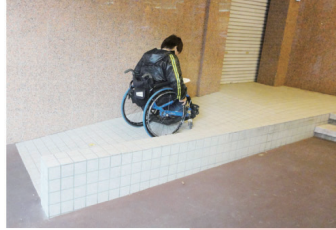


宿泊施設のバリアフリー対応例と解決へのアイデア

私たちの安心は
みんなの安心。
さあ！皆で出かけよう！



入り口付近に設置する呼び出しインターホンは来館者へ安心を提供します。



スロープを設置する場合は、勾配 8% 以内が理想ですが、車いす利用者等の意見も組み入れることが理想です。



出入り口の段差に着脱式簡易スロープを設置して車いすの乗降をサポートします。スロープがなくても「スタッフがお手伝いします。」も気持ちよいサービスです。

客室入り口ドアを開けて荷物を持ち込むのに一苦労な車いすの方には部屋まで届けるお手伝いがあると喜んでいただけます。車いすが必要とする間口は 80cm 以上とされています

和室を希望する車いすの障がい者は多く、ニーズも高まっています。また、膝が悪い方には、和室にも椅子があると便利です。



視覚障害の方のために、点字表記の館内図と、利用される部屋入口に点字表記をすればわかりやすいです。

バス・トイレの入り口が少し狭い時、ドアを取り外すことで広がられます。

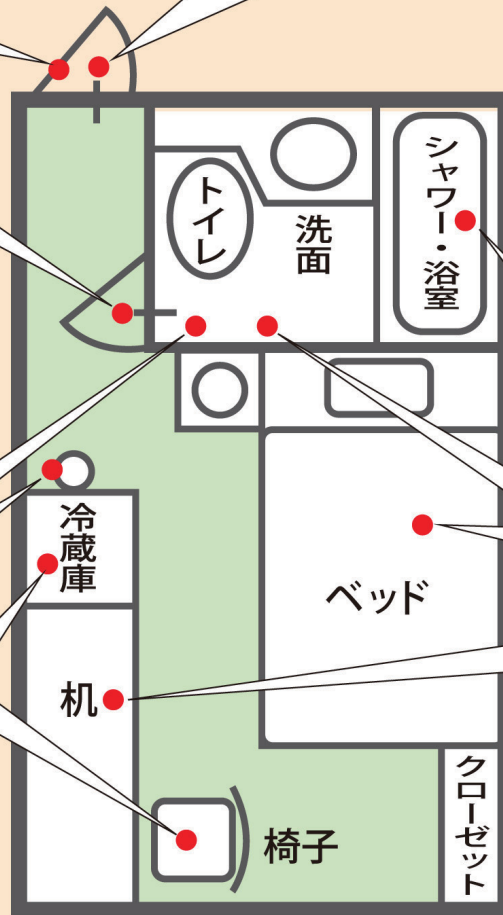
トイレや風呂の入り口の段差が何 cm であるかなど情報を公開してあるとお問い合わせもスムーズで時短になります。



トイレットペーパーの替えが多めにあると安心。くず入れも大きいと便利。

冷蔵庫や椅子など、備品の配置を工夫することで、車いすのお客様に快適スペースを提供。

視覚障害の方は、広い空間よりも手が届く空間の方が安心して利用しやすく、広いバリアフリートイレは不要です。障害=車いすではありません。



シャワーチェアへの代わりに、ビールケースにバスマットをオシャレに取り付けてもなかなかです。

シャワーヘッドを低くセットしておくだけで利用しやすくなります。

高い位置に収納されているタオル等を洗面台やベッドの上にセットしておくだけで利用しやすくなります。

テーブルや机は 70cm 前後の高さだと車いすのお客様も使いやすいです。



クローゼットのハンガーまで手が届かないお客様には S 字フックの利用でハンガーを低い位置で使用可能になります。

バリアフリー対応でリピート率 UP!